

校長授業訪問記 I

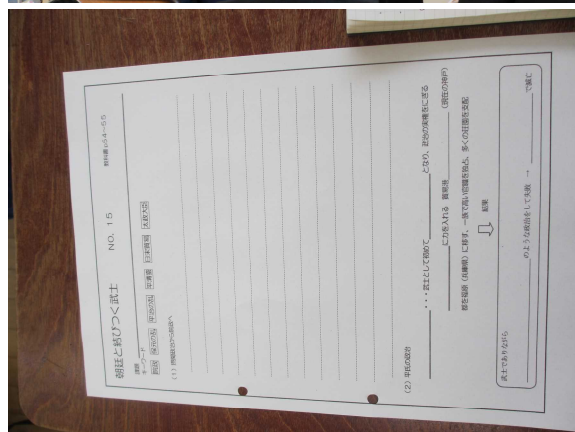
時間を見つけて授業に突然お邪魔し、1時間参観しています。その感想とともに、その様子をご紹介します。

2月1日2限 1年1組社会（歴史）の授業です。摂関政治から院政、平氏の政治へと変わっていく流れを、それぞれの特徴を比較しながら学習します。

摂関政治や院政などの用語は、生徒が主体的に学べるよう自分達で教科書や資料集を使って調べ発表します。（院政についてUさんが発表すると、Iさんは「どこに書いてある？」と質問していました）

院政が少しずつ色々な争いに繋がっていく様子については、生徒を歴史上の人物になぞらえることで、身近に考えられるよう工夫をしてました。

ワークシートは穴埋めではなく自由記述を中心に自分でまとめる形式であり、アウトプットを意識した展開でした。



同じく、2月1日 1年3組理科の授業です。「圧力の意味を理解して、計算で求めることができる」が狙いです。圧力については、県学力調査等でも課題になっているところです。（私も中学時代に、少し苦労しました）

授業では、まず1個の紙コップに生徒を乗せてつぶれるところを見せます。次に、紙コップを9個にし、その上に生徒を乗せるとつぶれません。ここで、生徒から「お一つ」という歓声が上がりました。（先生も少しドヤ顔）

「なぜ9個にしたらつぶれなかったか、その理由を考えなさい」と発問すると、生徒は一斉に動き出し、「体重が9個に分散されたから」など核心に迫る考えを出し合っていました。まさに、問題解決型の授業に繋がる課題提示でした。

